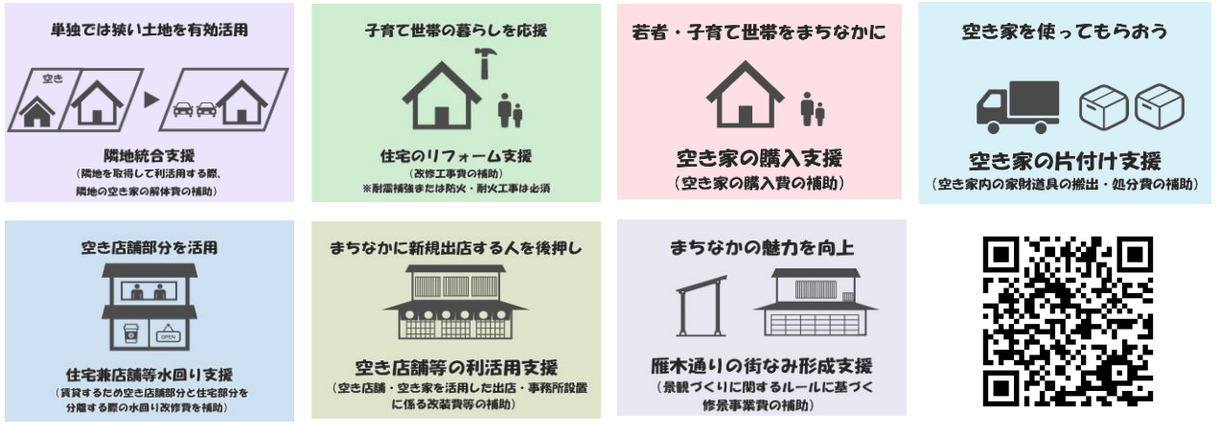
④支援･補助金制度

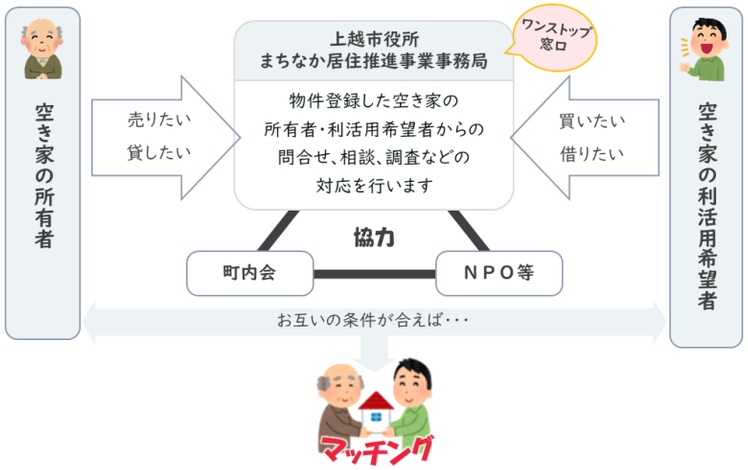
④−1 支援･補助金制度の紹介

補助金制度は、モデル地区もしくはまちなか居住推進地区認定を受けた町内会で活用できます。 ※モデル地区：あけぼの、天王町、福永町



※詳細は、市ホームページまたは、都市整備課までお問い合わせください。

空き家マッチング制度は、随時受け付けております。（空き家の利活用促進）



※まちなか居住推進地区以外でも活用可能！
- 市がワンストップ窓口となり、空き家の所有者等と利活用希望者をマッチング
- 「空き家情報バンク」とは異なり、物件情報は原則非公開

※まちなかの空き家を持っているお知り合いの方がいれば、その方に本制度をお伝えくださると幸いです。

④−2 補助金制度の活用実績

令和5年度は直江津地区で2件の補助金制度が活用されました。

◇隣地統合支援

・隣地の空き家を解体
↓
・跡地を駐車場と庭に利用

補助金制度のおかげで、道路に面した場所に駐車スペースをつくれた。出入りしやすくなった。

◇住宅のリフォーム支援

・子ども部屋を増やすため、洋間間仕切り
・防火タイプサッシ取付、ユニットバス入替

建築住宅課のリフォーム補助金よりも手厚い。
子供も喜んでます。

【発行年月】
令和6年12月

「まちなか居住推進事業」とは？

まちなか
＝西本町1～4丁目、中央1～5丁目、住吉町の区域（15町内会）

まちなかに“これからも住み続けたい”“新たに住んでみたい”“また訪れたい”と思う人が自然に集まるまちを目指す**新しいまちづくり**の取組です ！

本紙やホームページを通じて事業の取組内容や進捗状況を定期的にお知らせしています。

今回は、9月30日に開催した直江津地区15町内会との座談会についてお知らせします。

① 9月30日に直江津地区の15町内会と座談会を開催しました。

①−1 座談会（ワークショップ）について

座談会の様子

各グループの発表

座談会（ワークショップ）結果

※グループ分けをして、事前アンケートをもとにワークショップを行いました。
アンケート結果は中面②をご覧ください。

◇内容◇
- 各町内会での課題、問題を情報共有
- まちなか居住推進地区認定に向けたまちづくりの意向を確認

坍アドバイザー総括

◇主な意見◇
- 少子高齢化に伴い、町内活動が衰退
  →町内活動に対する関心の希薄化、地域コミュニティの衰退
  町内会長の負担増加
- 魅力的なまちにして人が集まるまちにすることが大事という意見もあった。

◇アドバイザーからの総括◇
- 「まちづくり」は今の時代で終わるものではなく、続いていくもの
- 各町内会で若い世代とも話し合い、取り組んでいくことが大切

発行 上越市まちなか居住推進事業事務局（窓口：都市整備課 市街地整備係）
E-mail：toshi-shigaichi@city.joetsu.lg.jp
Tel:025-520-5764／Fax:025-526-6112

上越市 まちなか居住　検索

①−2 モデル地区町内会長からの発表

あけぼの

町内の取組や課題

- 町内住民の半分が商店や事業者であり、町内会と駅前商店街振興組合の二重構造になっている。
- 町内会と商店街がうまく連携してまちづくりを進めていかなければならない。
- まずは町内会の活動に興味を持ってもらわなければならない。
- いろいろな意見をくみ上げて違う視点も入れることが大切。

福永町

町内の取組や課題

- 空き家が問題になっており、町内に危険な空き家もある。
- 町内会館を開放して茶話会を開催している。
- 直江津地区外の人にどうやって制度を知ってもらって、来てもらうかが大事。長いスパンで取組む必要がある。
- 今年度中に「まちづくり方針」を作成して、推進地区認定を受けられるよう町内で話し合っていきたい。

天王町

町内の取組や課題

※座談会当日欠席のため、事前に伺った内容を掲載

- 空き家の所有者が補助金を使って片付けをして、新しい人に引き継がれた物件もある。
- 住宅のリフォーム支援により、直江津地区外から子育て世帯が入って来るのでとても良い事例になると思う。
- 空き家はあるが、古すぎて使えない状態で住むのに適した空き家がない。
- 空き家になったばかりの物件であれば住める状態ではあるが、空き家になったばかりでは所有者に声をかけづらく、制度をどう周知するか悩ましい。

①−3 まちづくりアドバイザー講演 ～能登半島地震とまちづくり～

まちづくりの専門家として、本事業に助言をいただいている埒 正浩（らち まさひろ）アドバイザーから講演

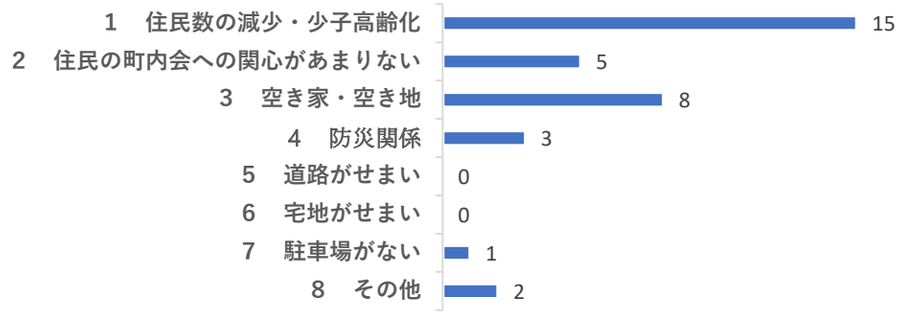
1　平時から地震など、**災害への備え**が大切である
2　建築物の**耐震診断、耐震改修**等が求められる
3　救急車両の通れない**狭隘道路の解消**が求められる
4　防災訓練など、**地域コミュニティ活動の充実**が大切である
5　住民・行政・事業者が**ビジョンを共有して協働のまちづくり**が求められる

②アンケート結果のお知らせ

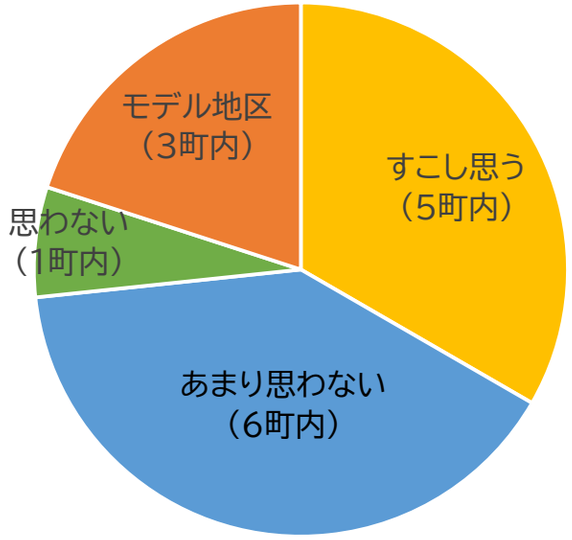
座談会に際し、直江津地区15町内会長より、まちなか居住推進事業についてアンケートに回答いただきました。
結果をまとめましたので報告します。（当日出席12町内会、後日回答3町内会）

Q 町内の課題や困っていることは何ですか？

※複数回答可



Q まちなか居住推進地区の認定に向けて、まちづくりに取り組んでみたいですか？



※複数回答可

取り組みたいと思う主な理由

- 地域の課題解決のため（5町内）
- 町内で話し合うきっかけにしたい（3町内）

※複数回答可

取り組みたいと思わない主な理由

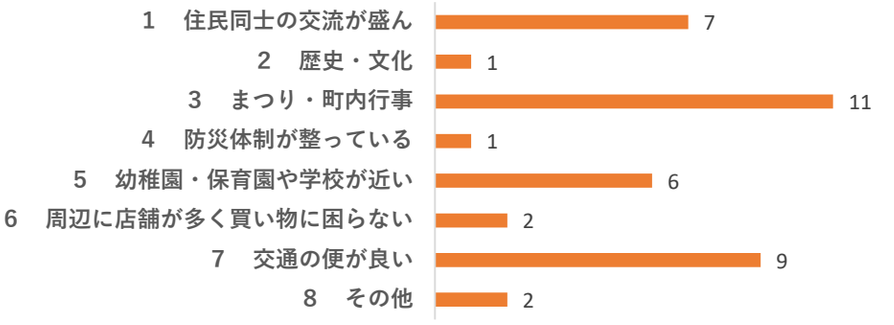
- 取りまとめる人の負担が大きい（7町内）
- まちづくりへの住民の熱意が高まっていない（6町内）

町内の課題解決に向け…

◇行政も一緒に取り組みます!!
◇町内の課題解決のため、まちづくりに取組んでみたい町内会はご連絡ください!!

Q 町内の魅力や良いところは何ですか？

※複数回答可



③今後の取組

- 令和6年度でモデル地区が終了することから、今後は、まちなか居住推進地区に認定され、まちづくりに取り組む町内会を増やしてまいりたいと考えています。
- まちなか居住推進のため、引き続き個別の相談や座談会、ワークショップ等も行います。
- 協働のまちづくりを大切にしていることから、行政も一緒になって課題解決に取り組みます。まちづくりに取り組んでみたい町内会は遠慮なくお声がけください。